

広尾町指定文化財

仙台藩トカチ陣屋跡

所在地 広尾町西四条九丁目

管理者 広尾町

指定年月日 昭和五〇年十一月一八日



江戸幕府は安政二年（一八五五）二月、蝦夷地東部本古内以北、西部乙部以北を上知し、箱館奉行の管轄とし、三月蝦夷地警衛を仙台、秋田、津軽、南部、松前の五藩に命じ、トカチ場所^{でいつかさ}は仙台藩の警衛地^{けいゑいち}となった。六月仙台藩は出入司^{でいつかさ}三好武三郎清房に東蝦夷地の見分^{けんぶん}を命じた。三好は東蝦夷地を視察調査にあたったがトカチでは会所に滞在し、陣屋を構えるための縄張り^{なわばり}を行っている。七月に仙台藩は蝦夷地の状況から警衛地を領地にして警備開拓に当たりたいと申し入れている。

安政六年（一八五九）九月、幕府は会津、仙台、久保田、庄内、南部、津軽の六藩に蝦夷地を分与し、警衛開拓に当らせ、仙台藩はシラオイ（白老）、トカチ、アツケシ（厚岸）よりネムロニシベツ（根室西別）までとクナシリ（国後島）一円、エトロフ（択捉島）を領地とし、ユウフツ（勇払）よりホロイズミ（幌泉）までと、エトロフの内シヤナ（紗那）を警衛地とした。トカチを領有した仙台藩は翌年にかけて広尾の円山の麓に陣屋を設けた。七年には塩釜神社の御分霊を勧請し塩釜神社を創建した。（御分霊を納めた「御神函」は十勝神社に現存）陣屋は現在の広尾小学校の校舎敷地内に土塁^{どるい}、虎口^{こぐち}、厩出し^{うまだし}の一部を残している。

陣屋の規模は一・二畧の面積に本陣のほか、武器蔵、米蔵^{こめくら}、雑蔵^{ざっ}、板

藏などがあり、陣屋勤番士は目付めつけを長とし勘定方かたじようかたを始め、医師、家中あしがらの足輕、大工、杵夫きずかなどの職人など総勢で二十人から三十人程度とみられ、本陣といわれる居宅は五間に十五間の七十五坪、草葺屋根くさぎきであった。陣屋の撤収時、面積は九十一坪であった。『十勝国広尾雜記』による）土塁の高さは三尺（約一メートル）厩出の高さは六尺（約二メートル）縄張りには仙台藩の兵法、長沼流によるものといわれる。

陣屋には白老の元陣屋、根室、国後などの出張陣屋でばりじんやに、広尾の十勝陣屋は屯所といわれる小規模のものであった。鉄炮（砲）などの火器も用意しており、陣屋内を星場せいばとして軍事訓練も行っていた。

勤番士の一人、板垣申三郎がこの地で没したが、墓碑は町内の禅林寺に安置されている。（墓碑、板垣申三郎を参照）

仙台藩では分領のトカチ場所ところで、警衛のかたわら開拓にあたっていたが、穀物の試作などを行っていた。大角豆、大根などの試作を行い、後年大根は「広尾大根」と称し有名になったが、陣屋周辺の湧水などが栽培に適したものである。大根は救荒食きゆうかうしょくとしても耕作は多かったであろう。

明治元年（一八六八、慶応四年を改元）戊辰の変で奥羽列藩同盟が政府軍に降伏し、つづいて旧幕府脱走軍も函館五稜郭を開城し一連の内戦が終わった。仙台藩を始め、各藩は蝦夷地から撤収、トカチ陣屋の勤番士もひそかに逃がれ仙台に帰藩した。翌二年（一八六九）八月新政府函館府から仙台藩施設一切をトカチ場所請負人が預ることになった。

御預申一札之事

一、陣家 一棟

旧伊達陸奥守様陣家

右之通り無相違御預奉申上候

依而一札如件

己八月 トカチ御場所請負人

杉浦嘉七 支配人 紋藏

〔『十勝国広尾雜記』より〕

開拓使設置により北海道は分領支配となり十勝国は田安、一橋両家と静岡藩が支配し、同三年（一八七〇）六月、陣屋施設は田安家に払下げられた。

明治三十五年（一九〇二）北海道庁の河野常吉は、その著『十勝国』で陣屋跡を官有地旧跡として永く保存することが望ましいと記している。牧場に開放の陳情もあったが、却下され永く保存されたが、昭和六年（一九三一）広尾小学校の移転改築の議が起こり、陣屋跡を史跡として保存することを名目として払下げをうけ、土塁内の一部を校舎にしたものの、その中心部を御真影奉安殿とするなどした。昭和九年（一九三四）新築落成した。更に昭和四十年（一九六五）七月、隣接地に改築工事が着工され、土塁の大半が消滅し、現在に至っている。

「注」

警衛地けいえいち＝蝦夷地の警備、防衛にあたる。

見分けんぶん＝調査、視察。

繩張りなわば＝測量、設計をすること。

土壘どるい＝土盛りして作ったとりで。

虎口こぐち＝陣屋の要所にあたる出入口。枅形の門を作り敵が一時に攻めこめないようにしてあるところ。

厩出しうまだ＝虎口や城門を守るために、その前面に作った土壘。

目付めつけ＝他国の動勢を調べたり、将兵を監察したりする役目。配下に徒目付かち、小人目付こびとがいる。

勘定方かんじょうかた＝金銭や數量を計算し、税金を徴収し、出納すいとう、財務をつかさどる役人。

出張陣屋でばりじんや＝本藩から地方に設けたもので、蝦夷地では元陣屋の管轄下にはいる。

星場せいば＝軍事訓練、射撃の訓練をするところ。

杣夫そまふ＝樹木の茂った山（杣）で、木を伐ったり、運び出したりする人。樵人のこと。